

あの日から10年、これからに向けて ——「命への共感」を感じられる町で生きる

私たちは、先人が残してくれた自然や文化を守り、育て、次世代に引き継ぐことで、世界に誇れる町をつくっています。大空にはコウノトリが帰ってきました。豊かな湿地の再生も進んでいます。子どもたちは世界に目を向けています。豊岡は、コウノトリ野生復帰の取組みを通して「人と自然が共生する町」の先進地としての役割を果たしていきます。



豊岡のコウノトリ野生復帰の取組みは、世界でも類を見ない大きな取組みで、世界がその成果に注目しています。

この取組みは、行政だけでなく進めてきたものではありません。生産者や団体、学校、企業、研究者、市民の皆さんと一緒に進めていくことが大切です。特に、環境行動の持続に必要なのが、環境と経済の両立です。本市は、環境都市「豊岡エコバレー」の実現を目指しています。また、たくさんの方の生きものと人が一緒に暮らせるように、引き続き、コウノトリ育む農法の拡大や湿地保全を進めていきます。なぜ、豊岡ではコウノトリ野生復帰の取組みが進んだのでしょうか。野生復帰を動かした原動力の一つが「命への共感」。人間とコウノトリは姿形は違いますが、同じ命です。その命のあふれた町をつくりたい—その情熱が共感となり、大きな輪となり、広がっています。

環境と経済が共鳴 豊岡エコバレーの実現



POINT

「環境を良くする行動で経済が活性化する」—環境と経済が共鳴する関係を「環境経済」と名付けて、豊岡で広めています。狙いは三つです。

1 持続可能性

環境を良くする行動を長続きさせるためには、経済の裏打ちが最も有効です。

2 自立

田舎の豊岡で経済活性化の可能性が残されている分野の一つが環境です。

3 誇り

環境を壊すのではなく、良くする行動で、私たちが経済を活性化できたら、それは私たちの誇りにつながります。誇りは町づくりのエネルギーになります。

※太陽電池の製造で地球温暖化防止に貢献する企業や木炭の製造で生きものいっぱいの里山を守る企業などを「**環境経済事業認定**」しています。

上田尚志さん

うえだひさし

NPO法人コウノトリ市民研究所代表



地域の生きもの調査を応援

コウノトリ市民研究所は、人と自然が共生できる地域を作るために、市民や行政などと協力しながら、豊岡盆地の生きもの調査をしています。

また、子どもの環境教育のために、積極的に自然の中で遊べる「田んぼの学校」を開催しています。

コウノトリ放鳥をきっかけに、それぞれの地域で大人が子どもと一緒に生きもの調査をする機会も増え、身近な生きものの生息状況が分かってきました。

今年4月から、市立コウノトリ文化館の指定管理を受けています。いろいろな生きものものを調べられるように、展示物や図鑑などを充実させていますので、気楽に遊びに来てください。

今後は、地域の生きもの調査を応援するとともに、情報発信を充実していきたいです。

コウノトリをシンボルとした豊岡の取組みが日本中に、そして世界に羽ばたく 世界の人々に尊重され尊敬される「小さな世界都市」へ



国連の会議などで紹介(平成22年9月～)

豊岡の環境経済の取組みなどが先進事例として掲載(「生態系と生物多様性の経済学(TEEB)」、「Satoyama」など)

ミラノ万博(平成27年5～10月)

テーマは農業と食料。日本館では日本の農業の理想的な姿にコウノトリ育む農法を紹介! 詳細は10ページに掲載



県外でも放鳥(平成27年7月)

豊岡から始まった取組みが県外の自治体でも具体化。県外では初となるコウノトリの放鳥を千葉県野田市が実施。福井県越前市でも10月に放鳥予定

国外でも放鳥(平成27年9月)

国外では初となるコウノトリの放鳥を韓国禮山郡で実施。放鳥される8羽のうち、2羽は県立コウノトリの郷公園から贈られたコウノトリの2世です。詳細は14ページに掲載



コウノトリも住める豊かな環境

たくさん命が共生できる町で生きる

コウノトリが野外で生息していくためには餌となる生きものにあふれた「豊かな自然」とコウノトリが近くについて素敵だと思える

「おおらかな文化」が人間の側に求められます。

コウノトリも住めるような豊かな環境

すなわち、豊かな自然環境と豊かな文化環境をもう一度取り戻さなければなりません。

自然とつながり、文化とつながり、人とつながる町・豊岡。

つながりは役割を生み、他者からの期待となり

私たちの誇りや生きがいを育みます。

世界中には、魅力ある町がたくさんあることを、私たちは知っています。

豊岡には、足りないところがあることも知っています。

でも、子どもたちには

「豊岡でいいのだ。この地で誇りを持って生きていきたい。

この地で世界と直接結ばれていくんだ」と思ってもらいたい。

私たちは、そんな町を守り、育て、引き継いでいきたい。

